

# 洋画家・青木繁が重文「海の幸」描く

## 小谷家修復が完成

明治期の洋画家で28歳で早世した青木繁(1882~1911年)が112年前、代表作「海の幸」を描いた館山市布良の小谷家住宅が2年がかりで修復され、29日から「海の幸記念館」として一般公開される。24日は、住宅の保存に尽力したノーベル医学生理

修復された小谷家住宅の前で式典が開かれた。館山市布良で



### ノーベル賞・大村さん支援 29日オープン、記念館に

らと4人で館山を写生旅行で訪れ、漁船を多く抱えた名家・小谷家に約50日間滞在した。その間に描いた「海の幸」は、2列に並んだ10人の裸の男たちが、モリで刺したサメを担いで行進する姿を描いた作品。ダイナミックな構図は生命力にあふれ、国の重要文化財に指定されている。住宅は1889年の布良地区の大火後に建



青木繁の「海の幸」の複製画の前に、小谷福哲さんの説明を聞く大村智さん(左から2人目)＝小谷家住宅で

遺産フォーラム」が中心となって組織した「青木繁『海の幸』誕生の家と記念碑を保存する会」(愛沢伸雄事務局長)が、小谷家や館山市に働きかけ、県内外で支援を呼びびけてきた。

2年前から始まった工事では、屋根や外壁が修理され、内部も見学しやすいよう整備された。費用は約2800万円。2009年に住宅を市の文化財に指定した館山市が約560万円を予算化し、残りを「ふるさと納税」などでまかなった。大村さんも個人として2度にわたり計500万円を「ふるさと納税」の形で寄付している。小谷家の当主の福哲さん(65)は「布良の子供たちに誇りと元気を伝えていきたい」と話し、家の中を案内された大村さんは「ここで絵が生まれたのかと感無量な気分だ。大勢の皆様さんと喜びを分かち合いたい」と感激した面持ちだった。

【中島章隆】